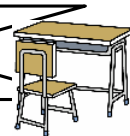




平成30年度 横浜市学力・学習状況調査の結果と今度の指導について



今年2月に実施した「横浜市学力・学習状況調査」の結果について、本市平均点との比較をもとに、本校の今後の指導のあり方を検討しましたので、ここにご報告致します。

1年生

<国 語>

- 「話すこと・聞くこと」に関しては、大事なことを落とさないようにしながら話を聞くことができるようになってきている。
- 漢字を正しく読み書きする力や言葉を正しく文の中で使う力が身に付いてきている。
- 「書くこと」では、句読点やかぎを使って、つながりのある文章を正しく書くことに課題がある。
- 「読むこと」では、文章の中の大事な語や文を探して、書き抜く問題に課題が見られた。

<今後の指導>

楽しく文章を書く活動を取り入れ、書いた後は読み返しながらか正しく言葉や句読点などが使われているか確認するように支援する。

<算 数>

- 繰り下がりのある計算や3つの数の計算を正しく解く力が定着してきている。
- かさの正しい比べ方ができている。
- 時刻を正しく読むこと、図形のもの位置や分類の問題に課題が見られる。
- 和が10より大きい数の計算の正答率が低い。

<今後の指導>

時計や図形の問題では具体物を使って、繰り返し問題に取り組むようにしていく。また問題文を順序立てて読み、文の中の大事な言葉を落とさないように解くことができるように支援していく。

<生活・学習意識調査の傾向と学習結果のつながりについて>

「勉強が好き」「授業が分かる」「ノートを工夫して書いている」「自分の考えを発表している」という設問については、市の平均を上回っており、積極的に学習に取り組む姿勢が見られる。その反面、「学習したことを生活の中で使おうとしているか」については、市の平均を下回っている。数の教え方や時計の見方など、言葉の使い方など、学んだことを普段の生活の中で使い、実践していく中で、さらに定着していけるように支援していきたい。

「家の手伝いをしている」「読書の時間」は市の平均を上回っていた。「朝ごはんを食べるか」「10時までに寝るか」では、平均を下回っており、基本的な生活習慣の定着をさらに図っていく必要がある。

2年生

<国 語>

- 読むことについての設問では、順序を考えながら内容の大体をとらえることについての正答率が、市の平均を上回っていた。
- 全観点の正答率は、市の平均とほぼ同じくらいだが、知識・理解・技能を問う設問については少し低かった。特に文の中で、助詞やかぎ「」を正しく使うことについての正答率が低かった。また、片仮名で書く言葉についての正答率も低かった。

<今後の指導>

日頃から、文章を書くときには適切な漢字や片仮名を使うよう指導している。今後も引き続いて指導するようにしていく。また、文章を書いた後に「確かめ」をし、助詞やかぎを正しく使えるよう指導していく。

<算 数>

- 数と計算、知識理解を問う設問については、市の平均を大きく上回っている。
- 直角三角形の作図や、位に着目して筋道立てて数の大小を考えることについての正答率が低かった。

<今後の指導>

基礎的な学力は定着している。作図については「直角」「辺」などの用語についての理解を確実にすることを指導していく。また、問われたことに対して筋道立てて説明ができるような表現力を身につける学習に取り組んでいく。

<生活・学習意識調査の傾向と学習結果のつながりについて>

「勉強が好き」「授業が分かる」「勉強は大切」という設問については、市の平均を大きく上回っており、意欲的に学習に取り組んでいることがわかる。特に算数については、「好き」と答えている割合がかなり高く、調査結果に表れている。「勉強したことを生活の中で使おうとしている」という設問については、市の平均と同程度であった。学習して理解したことを、日々の生活や新しい学習に取り組む際に、進んで使えるように指導を続けていく。

「家の手伝いをしている」「家庭学習の時間」が、市の平均より低かった。学校からも日々の生活に生かしていけるような過ごし方について、よりよい意識ができるような声かけをしていくことが必要であると考えます。

3年生

<国 語>

- どの設問についても、市の平均値を上回っていた。特に、「書くこと」の領域の力が昨年度と比べ伸びていた。
- 「指示語が指す語句の理解」「書こうとするものの中心を明確にして、書き表すこと」に課題があった。

<今後の指導>

学習意識調査の結果によると、国語の学習を大切だと感じ、学校図書館に行くことが好きな児童が多い。学習内容を深めるために図書の本を活用したり、読書に親しんだりする機会を大切にしていきたい。

<社 会>

- 「方位や土地の高低に着目して、横浜市の土地の様子を読み取る」以外の設問では、市の平均値を上回っていた。
- 資料を読み取ることはできているが、設問と資料の両方をじっくりと読む必要がある設問に課題があった。

<今後の指導>

資料の内容を根拠として、資料から分かること・考えたことを、自分の言葉で表現する機会を大切にしていきたい。

<算 数>

○「コンパスを用いての円の作図」以外の設問では、市の平均値を上回っていた。昨年度と比べ、「知識・理解」「数学的な考え方」の観点の正答率が高くなった。

<今後の指導>

学習意識調査の結果によると、算数の学習を好きだと感じている児童は、わずかながら市の平均値を下回っていた。自分の考えをもつことができたり、考えを説明しようとしたり、子ども一人ひとりが安心して学習に取り組めるよう引き続き支援していきたい。

<理 科>

○どの設問についても、市の平均値を上回っていた。特に、「光の性質」「昆虫と植物」の領域で正答率が高かった。

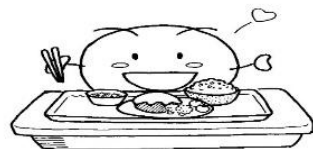
<今後の指導>

学習意識調査の結果によると、児童の理科への関心は高いが、考えたことを文や図で表現することに苦手意識がある児童もいることが分かった。課題—予想—実験—結果—考察という学習の流れを大切にしていきたい。

<生活・学習意識調査の傾向と学習結果のつながりについて>

「ノートを丁寧に工夫して書いているか」「自分の考えを発表しているか」「1日にどのくらい読書をするか」「1日にどのくらい勉強しますか」という設問では、市の平均を上回っていた。このことが、基礎的・基本的内容の定着につながっていると考えられる。

「まちの行事に参加しているか」という設問では、市の平均を下回っていた。3年生の社会科で「まち」を学習したことを生かしながら、自分から「まち・人に関わりたい」と思う気持ちが高まっていくようにしていきたい。



4 年生

<国 語>

○ほとんどの観点・領域において市の平均値を上回っているか平均値と同じくらいである。中でも「言語」においては、正答率も高かった。

●目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことに課題がある。

<今後の指導>

文章を読み要約する力をつけていくために、普段の学習から、自分の考えを簡潔に話したり、書いたりできるように、対話的な活動を多く取り入れていく。また、基礎基本の学力は身につけているので、学習した内容を活用して、自分の考えをより明確に伝えたり、根拠のある説得力のある文章を書いたりしていく。

<社 会>

○ほとんどの観点・領域において市の平均値を上回っているか平均値と同じくらいである。中でも、「ごみの処理の仕方」「地域開発」の到達率は特に高かった。

また、「警察」に関する発問の正答率は、80%を超えるものが多く見られた。

●地図上での神奈川県を中心とした時の、都道府県の位置を把握できていないことが課題である。

<今後の指導>

学習内容をいかに自分ごととして考えられるかが重要となってくる。地域と関わるような体験型学習を上手に取り入れていき、児童が常に自分たちの住む街と比較しながら学習を進めることで、より一層の学力の定着を図っていきたい。

<算 数>

○4年生で定着させたい基礎基本的な学力は、概ね身につけている。

●基本的な計算問題では、桁数が多くなることで計算ミスが多くなった。また、グラフを正確に読み取り、よりわかりやすいグラフにする工夫、活用する方に課題がある。

<今後の指導>

普段の授業から、「早さ」よりも「正確」に重点を置き、時間までは見直しをすることを大切にしていく。そして、学習した内容を活用して発展的な問題に取り組んでいく。

<理 科>

○ほとんどの観点・領域において市の平均値を上回っているか平均値と同じくらいである。中でも、「空気と水の性質」においては、正答率も高かった。

●どの領域においても、「思考・表現」の観点が市の平均値より低く、学習したことを活用する点に課題がある。

<今後の指導>

「実験結果」と、「結果から言えること（考察）」とを明確に分けて考えられるように、ノートの記述方法を指導していく。また、考えたことを伝え合う活動を充実させることで、科学的に思考する力を伸ばせるようにしていく。

<生活・学習意識調査の傾向と学習結果のつながりについて>

自主性や積極性に関する調査では、家庭での生活や学習ともに、高自己評価の回答が少なかった。また、ものごとを最後までやりとげてうれしかったと感じることが少ないようなので、達成感や人に認められる経験を味わわせることで、自主性や積極性を高めていきたい。

5年生

<国語>

○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語」全ての領域において、市の平均を大きく上回った。特に、話し手の意図をふまえて、自分の意見をまとめて伝える力がよく身に付いていることが明らかになった。

● 「読むこと」（説明的な文章の解釈）自分の課題を解決するためにちらしの文章と図を照らし合わせながら必要な情報を得る設問に課題が見られた。

図と文章を結び付けながら読む力を伸ばす必要がある。

<今後の指導>

説明文や物語文だけではなく、ポスターやちらしなど図や表を含んだ多様な文章の読み取り方を指導する必要がある。

文章だけではなく、図に含まれる記号なども読解の対象になることについて、多様な文章を関連付けて読むような学習場面の中で指導していきたい。

<社会>

○ 「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」「社会的事象についての知識・理解」全ての観点において、市の平均を大きく上回った。なかでも、複数の事実を関連付けて考えることで、その事象の意味について考える力がよく身に付いていることが明らかになった。

● 地図帳の索引を使い、「奥州市」の位置を調べる設問のみ、市の平均と同じ値であった。

<今後の指導>

社会的事象について一つの資料を見て考えるとともに、複数の資料をもとに考えていくことを大切にして指導を行うようにする。

また、地図帳や資料集を活用し、日常的に地図帳や資料集を開く習慣を育むとともに、索引や目次を適切に用いて必要な情報を正確、かつ素早く得ることができるよう指導していきたい。

<算数>

○ 「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」「数学的な考え方」全ての観点において市の平均を大きく上回った。特に、情報を適切に用いて作図する力や、日常の場面において、公倍数を活用することで、問題を効率よく解決する力が、大変よく身に付いていることが明らかになった。

● 小数×小数の計算をする設問において、市の平均をやや下回った。

<今後の指導>

1より小さい小数をかけると積は被乗数より小さくなることについて、具体的な場面や数直線などを用いて考えることで、量感を養い、計算の見直しに生かせるようにしたい。

<理科>

○ 「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」全ての観点において、市の平均を大きく上回った。特に、自然の事象・現象について予想や仮説をもち、条件に着目して観察や実験を計画し表現する力が大変よく身に付いていることが明らかになった。

● 電磁石の強さを確かめる実験の結果を分析し、適切な結果を選んで考察する設問において、市平均をわずかに下回った。

<今後の指導>

「電流のはたらき」領域については、できあいの教材を用いて実験を行うことが多く、児童は、実験に使用する導線の長さなど、そろえる条件、変化させる条件に着目しづらいと考えられる。変化させる条件だけではなく、そろえる条件にも目を向けて実験に取り組めるようにしていきたい。

<生活・学習意識調査の傾向と学習結果のつながりについて>

- ・ 「学校の授業は分かりやすい」「自分の考えをよく発表している」と考える児童が、市平均と比較してかなり多い。また、家庭学習を家で行う時間や、手伝いをしている児童の割合も、市平均と比べて高い。学習意欲の高さや、各家庭での手厚い支援が、学習状況調査の結果にもよく表れているものと思われる。
- ・ 「まちの行事に参加していますか。」という質問について、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童の割合について、昨年度と比較して、市の平均との差が2%減少した。地域の人とふれ合う機会を設けたり、地域の施設を積極的に活用したりした成果と考えられる。しかし、「まちのために出来ることを考えて、進んで行動できる子ども」を育成していくためにも、地域の材を活用した授業づくりをさらに充実させていきたい。

6年生

<国語>

○ 教科全般において、市の平均を大きく上回っていた。特に話すことや聞くことや、言語に関する基本的な知識が確実に定着していた。

<算数>

○ 基礎・基本的な知識は市の平均値を大幅に上回っている。特に分数のかけ算やわり算、整数・小数・分数の混合計算などの計算ができていた。

● 図形に関する知識・理解や数学的な考え方を問う問題は正答率低かった。作図をする技能の力は十分身につけている。

<社会>

○ どの設問についても、市の平均を大きく上回り基礎的な知識を身に付けている。活用する力も十分身につけている。特に歴史の領域は正答率が高かった。

<理科>

○ 知識・理解を問う設問について、市の平均正答率を大きく上回り、基礎的・基本的な知識が身につけている。

● 土地のつくりや変化については正答率が若干低かった。

<生活・学習意識調査の傾向と学習結果のつながりについて>

- ・ 外国人の先生や友だちと英語でコミュニケーションをとることが楽しいと思ったり、外国人の先生が話していることが分かる割合が多かったりすることから、中学校での英語の学習にも、スムーズに移行できると考える。
- ・ 1日の読書量と携帯電話やスマートフォンを操作する時間を比べると、携帯電話やスマートフォンをしている時間の方が圧倒的に多い。これからの時代を担う子どもたちにとって、携帯やスマホは安全に使ってほしい。一方で、読書から得られる知識も大いにあるので、両方のバランスがとれるとよい。

<「横浜市学力・学習状況調査」のねらい>

「横浜市学力・学習状況調査」（及び「生活・学習意識調査」）は、児童の学習状況について分析的・総合的に把握することで、教科指導や学習評価の工夫や改善に生かすと共に、児童自らが学力向上のための学習改善に生かすことを目的に行われています。

<本校の実態・教科学習の状況>

「学力・学習状況調査」では、全教科において、横浜市の平均正答率を大きく上回っています。また、「生活・学習意識調査」では、各教科・領域等の学習を「好きだ」「どちらかと言えば好きだ」と回答をしている児童が8割近くいました。